

カンボジア国ボランティア研修 2024 年 8 月

【概要】

2024 年 8 月 13 日から 22 日の 10 日間、カンボジア国での植林ボランティア研修を実施しました。本研修は、2023 年度「日中植林・植樹国際連帯事業」の一環として行われ、日本から 8 名の大学生と 2 名の引率者、カンボジアからは 8 名の大学生が参加しました。

研修では「カンボジア国におけるアグロフォレストリーによる持続可能な開発の推進」をテーマに、学生さんが様々な活動に取り組みました。NGO が実施する植林・普及啓発活動では、地域住民との交流を通じて湖の保全を目的とした植林活動を支援しました。また、地域の小学校を対象とした森林環境教育のためのワークショップを支援し、その重要性への理解を深めました。更に、森林保全と農業生産を目指したアグロフォレストリー実践地の視察、2020 年にアグロフォレストリーを導入した農林地における樹木の炭素貯留量推定のための毎木調査、森林伐採が進む村における森林資源マップづくりのための農村調査を実施し、現地の現状把握と課題発掘に取り組みました。炭素貯留量を推定するための調査では、アグロフォレストリーシステムにおける間作作物の有無や種類が、樹木の炭素貯留量に与える影響を評価するため、3 つの学生グループがそれぞれの区画（間作作物：A キヤッサバ、B コメ、C なし）で調査を行いました。その結果、3 つの区画間で樹木に貯留された炭素量に明確な差があることが確認されました。また、地域住民と協働で作成した森林資源マップからは、人々の生活空間における木材林産物 (TFPs) と非木材林産物 (NTFPs) の資源となる樹種の位置関係が明らかになりました。

最終成果発表では、これらの調査結果を定量的に示しながら、持続可能な開発を推進する上でアグロフォレストリーが有効なアプローチであることが学生より提案されました。さらに、日本とカンボジアの気候や地形、食文化などの違いについても議論が行われ、様々な環境要因や社会的要因により、持続可能な開発のあり方にも違いがあることを双方が認識する貴重な機会となりました。

【活動スケジュール】

月日	活動
8/13	・成田空港発、プノンペン国際空港着
8/14	・カンボジア王立農業大学にて学生との交流、グループディスカッション、キャンパスツアーの実施 ・キリングフィールド訪問 等
8/15	・国立博物館、王宮への訪問 等 ・プノンペン都発、トボンクムン州へ移動
8/16	・トボンクムン州における湖保全のための植林支援と、現地小学校を対象とした森林環境教育(ネイチャーゲームの実践)を目指したワークショップの支援 等 ・トボンクムン州発、シェムリアップ州へ移動
8/17	・アンコール遺跡群と自然保護地区への訪問
8/18	・シェムリアップ州におけるアグロフォレストリー実践地の見学と、炭素貯留量推定のための毎木調査 ・希少在来樹種の苗木生産現場の見学 ・グループディスカッション(調査結果の解析) 等
8/19	・シェムリアップ州 Kna Krao 村における森林資源調査 ・グループディスカッション(森林資源マップづくり) 等
8/20	・CE SAIN テクノロジーパークにおける環境保全型農業実践現場の見学 等 ・シェムリアップ州発、プノンペン都へ移動
8/21	・カンボジア王立農業大学にて日本人大学生による成果発表会(課題:「カンボジア国におけるアグロフォレストリーによる持続可能な農村開発」) ・修了式 等
8/22	・ローカルマーケット視察 等 ・プノンペン空港発
8/23	・成田空港着、解散

【参加者の声】

- ・今回の研修では環境教育に興味を持ちました。大学では教職課程を通して生徒達に自然に対する関心や理解を深めてもらうことをテーマに学習しており、今回現地で経験した環境教育にも似たような目的を感じました。地域住民との植林活動や森林環境教育のためのワークショップ支援の経験から得たことを今後の学びに活かしていきたいと思います。
- ・どの活動も興味深いものでしたが、特に、炭素貯留量の測定経験が自分にとって刺激となりました。農村の方たちが森林を守っていくためにはアグロフォレストリーの活動が必要で、収益を確保することと森林保護を共に考えなければならないと感じました。大学でも、持続可能な農業の実現に向けて試行錯誤していきたいです。
- ・環境保全について様々な観点から学ぶことができました。森林資源マップづくりのための農村調査の過程では、村人と自然との関わりについて知ることができ、新たな関心事となりました。現在は就活中ですが、以前から興味があった食品関連の企業だけでなく、環境保全に取り組む企業も就職先として検討していきたいです。
- ・本研修では、個人旅行では経験できない価値のある時間を過ごすことができました。持続可能な農業への興味も高まり、将来的には開発途上国で農業に携わる仕事を通じて社会貢献していきたいと考えています。

【活動写真】



カンボジア王立農業大学訪問



国立博物館訪問



独立記念塔公園散策



トボンクムン州における湖保全のための植林支援



Kna Krao 村の住民とのグループ写真



小学校を対象とした森林環境教育のためのワークショップ支援



Kna Krao 村における森林資源マップづくりのための農村調査



アンコール遺跡群と自然保護地区への訪問



森林資源マップづくりのためのグループディスカッション



農林地における樹木の炭素貯留量推定のための毎木調査



成果発表会



希少在来樹種の苗木生産現場訪問



修了式